

衛藤 美和

一步踏み出した先で、何を掴むか



国家公務員制度改革の最前線で

人事・恩給局での4年間を振り返りますと、最初の2年間は、能力・実績主義の人事管理の徹底を図るための制度作りを行いました。政令や基本方針の策定には厳格なルールがあり、閣議決定の手续や詳細な文書様式を覚えるのに一生懸命だったのを思い出します。

その後の2年間は、労働基本権を制限されている国家公務員に協約締結権を付与するための検討に携わってきました。

どちらも公務の世界に初めて導入する制度であり、前例に囚われない発想が求められる貴重な経験となりました。

人事行政も国際舞台へ！

国家公務員の人事管理というと、海外とは縁遠いイメージを持つ人も多いかもしれませんが、かく言う私も入省前はその一人でしたが、蓋を開けてみれば、この4年間で5度の海外出張を経験させていただきました。我が国の公務員の労働基本権の問題については、国連の専門機関の一つである国際労働機関（ILO）の関心も高いことから、人事・恩給局では、ILOに対して公務員制度改革の進捗について報告を行う他、毎年6月に開催されるILO総会では、スイス・ジュネーブにあるILO本部に赴き現地対応を行っています。私は政府代表団の一員として約3週間ジュネーブで仕事（会議報告作成、情報収集等）をしましたが、現地では、出張者それぞれに役割が与えられ、経験の少ない若手であっても主体的に行動することが求められます。すぐに指示を仰げる上司がいない環境で、当初は不安もありましたが、責任を持って（時には大胆に）行動する勇気が身につきました。また、滞在中は、ILO条約の専門家と一対一で議論する機会も得ることができ（勿論英語です！）、国際舞台では積極性が物を言うことを痛感しました。

新たな目標とともに

入省当初、上司や先輩との知識・経験の差に圧倒されていた私も、幾つかの国際会議を経験した今、我が国が抱える問題を国際基準で俯瞰して捉える力を養う必要性を強く感じています。今後も勉強と経験を積み、国内での政策立案に新しい風を吹き込む人材になりたいという、新たな目標も生まれました。

若い勇気と情熱を受け止めてくれる場が、ここ、総務省にあります。皆さんと共に、躍動感溢れる日々を過ごせることを楽しみにしています。

PROFILE

平成20年4月 総務省採用
人事・恩給局
任用第一係

平成22年4月 現職

とある一週間

月曜日

朝の係内ミーティングで、一週間の業務内容を確認。文書管理など局内照会の作業依頼を仕上げ、提出。

火曜日

ILOで開かれる委員会に向け、他省庁と協議後、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部に電話で対応を相談。

水曜日

定時退庁日は、帰宅後、現在の業務でも使う機会が多い英語の勉強に専念。

木曜日

来週予定しているイギリス制度調査の出張準備。既に完成している数十時間の調査事項に優先順位を付し、上司とヒアリングの戦略を練る。

金曜日

在イギリス日本国大使館の書記官と、現地での日程について最終確認。訪問先での配布資料や現地の地図を印刷。

土・日曜日

現代アート的美術館や屋外展覧会巡りへ。面白い作品に出会ったときの衝撃はとも奥深く、アート巡りはやめられない。



ILOにクジャクが!?驚く筆者